

長野市おひざで絵本事業 絵本選定委員会 会議要旨

- 【日 時】 令和7年8月21日（木） 午後3時から午後5時まで
- 【場 所】 市役所第一庁舎4階 教育委員会室
- 【出席者】 委 員 伊藤直子委員 中野明子委員 西澤広美委員 萩原元子委員
藤沢陽子委員 若狭知子委員 渡邊望委員
- 事務局 前島卓教育次長
藤原慶治家庭・地域学びの課長
古平京子家庭・地域学びの課長補佐
石坂三由里家庭・地域学びの課係長
徳武朋香家庭・地域学びの課主事
相澤あずさ長野図書館係長
佐藤文香長野図書館司書
芹沢広美南部図書館司書
林由佳象山保育園長

【主な内容】

協議事項

- (1) おひざで絵本事業について
～事務局より説明～
(意見・質問なし)

(2) 絵本の選定について

～事務局より説明～

- (委 員) 絵本の値段が1,000円程度とあるが、物価もあがってきているため、例えば1,200円ぐらいだと絵本の幅が広がるように感じた。予算もあると思うが検討いただきたい。

『推薦絵本について』

- (委 員 長) 推薦絵本として3冊候補をあげていただいているが、それぞれ推薦者から絵本について紹介いただきたい。
- (委 員) 「がたんごとんがたんごとんざぶんざぶん」は、昨年度の会議で乗り物に関する、絵本の開拓が必要ではないかという話しを念頭に、いろんな書店を回った。東京都にある老舗のクレヨンハウスの絵本のコーナーに伺う機会があり、その時一番押していたのが、この絵本であった。
乗り物の絵本ということと、価格も1,000円以内であり。比較的ロングセ

ラーの絵本であることも推薦の理由である。以前、前作の「がたんごとんがたんごとん」は配付絵本に選ばれていた期間があったが、こちらの絵本はまだ選ばれたことがないため、候補に推薦した。

(委 員) 「よくきたね」は、自宅に「まってね」という絵本があり、こちらを推薦絵本にと思っていたが、福音館書店に確認したところ在庫がなく、推薦ができなかった。その時に作者の同じ、「よくきたね」という絵本を教えてください、とてもかわいらしい動物の本であり、「はいはい」から「あんよ」になる頃、お母さんがおいでと言い、子供が来るという繰り返しの絵本のため、絵本配付の時期にちょうど良いと思ったことと、配布絵本の中だと、動物の本が「電車くるかな」のみであり、このようなタッチの動物の本も良いと思い推薦した。

(委 員) 「くっついた」は、赤ちゃんにとっても、保護者にとっても、「くっついた」という行為が心地いいことなので、改めてその原点を大事にしたいというところと、実際に子供たちに読んだことがあり、赤ちゃんたちがこの絵本に引きつけられて、繰り返し楽しんでいた絵本の 1 冊であったため推薦絵本に選んだ。

(委 員 長) 推薦絵本を提出していない委員はどのように思ったか。

(委 員) 現在の配付のラインナップが良く、今回配付絵本を変えなくてよいと思いい推薦絵本をあげなかった。ここ数年は毎年変わっていたが、その前まではそんなに頻繁に変わっていないはずである。

今回推薦絵本にあがっている「がたんごとんがたんごとんざぶんざぶん」の前作と「くっついた」は配付絵本に以前まで入っていた、もらうお子さんが違うためいいとは思いますが、その辺を復活させる何か強い思いが必要に感じる。「よくきたね」はすてきな絵本だと思うが、どれと変更かと思ったときに候補が見つからないように感じた。

(委 員) 文庫連のメンバーで集まり検討した。1つは「いないいないばあ」についてで、当初から配付絵本に選ばれているということで、その都度検討がなされてきている。「いないいないばあ」という行為、これにはあっちの世界とこっちの世界という生と死という意味合いもある。そのため生きていく上で一番の基本になると考える。子供たちが本を通し、一番身近なこととして、触れて欲しい思いがあり、「いないいないばあ」関連の絵本は残したい。また、もう1つ売れている本として、「いないいないばああそび」という絵本がある。比べて見てわかるとおり、色合いがはっきりしており、赤ちゃんには刺激が強すぎるのではと思った。そして、最後の「いないいないばあ」で豚になり、その後の「ばあ」で人間の顔が出てくる。構造的にもよくできておりとても良いが、引っかかった。「いないいないばあ」は単純さが良い。

絵本は繰り返しの文化がある。繰り返し伝えることで子供たちに心地よく内容が入っていくということもあるので、古い本ではあるが、やっぱり外せない絵本ということで意見がまとまった。

推薦絵本については、「くっついた」も大好きな絵本ではあるが、最後にお父さんとお母さんと赤ちゃんとで「くっついた」という部分がある。そこが、長野市の配布絵本にするのはどうなのかと感じた。今回載せなかったが、乗り物の本というところで、差し替えるとき幾つか探してみたが、子供たちは電車がとても好きのため、現在の「電車くるかな」はそのままでもいいのかなと思った。

文庫連の、他のメンバーからも今までの委員が、議論を重ね決めてきた絵本なので、今回あえて変えず様子を見てもいいのではないかと意見が出た。

(委 員 長) 家族の形がいろいろあるということを見ると「くっついた」は市の配付絵本候補からは外すということによろしいか。

(委 員) 「くっついた」は、昨年選んだ5冊が良くないから提案したのではなく、何か1つ提案するならと考え選んだ絵本である。いろんな深い意味合いを伺い、いろんな家庭の事情の方がいることは承知のうえで、園としての判断で読むことはあるが、いろんな受けとめ方があり、そういった要因が、確かにあると思う。「くっついた」を市の配布絵本候補からは外すことでよいと思う。

(委 員) 以前保育園長をやっていたときに、ひとり親家庭のお子さんが増えているが、あえて絵本を通して、お父さんやお母さんの存在を伝えることを大事にしていた。しかし、出産直後の母親は、傷つきやすい。その母親がこの絵本を読んだときにどうとらえるかは、心配なところではあると思う。保育園などで取り上げていくには、とても大事な本だと思うため、そこは分けて考えたほうがよいと思った。

また、「がたんごとんがたんごとんざぶんざぶん」を選んだ理由の一つには、配布絵本の価格帯を合わせるためにも900円以上のものを選んだ方がよいと思い選んだこともある。

(委 員) 「よくきたね」は他の自治体でも配付絵本に選ばれている絵本でもある。先ほど繰り返しが大切という話もあったが、そんなところでも選んだ本である。また、絵も魅力的でリアルすぎず、程よくちゃんと動物を描いている。

(委 員 長) 「がたんごとんがたんごとんざぶんざぶん」について、電車の絵本をいれるのであれば、電車の絵本と差し替えになると思うがいかがか。

(委 員) とても人気の絵本であるが、結構夏っぽさが協調される絵本のため、冬生まれの子などにはあまりピンとこないのかもしれない。

『長年選ばれている絵本について』

- (委員長) 「いないいないばあ」と「くだもの」について、再度確認をしたい。
「いないいないばあ」について意見が出たが他はどうか。
- (委員) 自分自身、赤ちゃんへの絵本のプレゼントを考えたとき、時代を超えて選ばれている絵本であるため「いないいないばあ」をあげたくなった。
- (委員) 先ほど「いないいないばああそび」を比較したが、委員として求めている絵本の世界は、「いないいないばあ」だと感じた。
- (委員) 文庫連でも、10年後くらいに若いお母さんたちの感覚としてはどうなのかとも感じるが、私たちが関わっている時までは「いないいないばあ」を残すという意見でまとまった。
- (委員) 前回「いないいないばあ」は多くの家庭にあるといった話もあったが、読み聞かせをする際「いないいないばあ」読んでいるか保護者へ聞くあまりいない。絵本に関わる人達は「いないいないばあ」の良さをわかっている。「いないいないばあ」を残し、この本のよさを伝えていきたいと思う。
- (委員長) 「いないいないばあ」に関しては、我々委員として長野市として、親子に薦めたい1冊ということで、残すということによろしいか。

(一同同意)

- (委員長) 「くだもの」について何か意見があれば聞かせてほしい。
- (委員) 「くだもの」の後ろに2歳から4歳向きと書いてある。他の配付絵本は対象年齢が0~2歳ぐらいになっている、「くだもの」も読み聞かせであれば、0歳児でも問題ないので、手にとる保護者の方がどう思うかというところではある。
- (委員) 文庫連でも対象年齢について話題にあがった。赤ちゃんへの読み聞かせ活動しているメンバーでからも、「くだもの」を読むと子供たちがとても喜ぶと聞いている。
また、春に平山先生の原画展を見に行き、そこで子供たちに本物の素晴らしさ、本物を伝えていきたいという思いが強かったと掲載があった。
- (委員) 「くだもの」は赤ちゃんのときから、ずっと楽しめる長く愛される本だと思っている。「電車くるかな」などは0~2歳ぐらいで限られるかもしれないが、「くだもの」は小学校行ってもずっと楽しめる絵本。
- (委員) 食べる意欲は生きる意欲とよくいうが、食育の始まりとしてもよい絵本。長野にゆかりの深い平山先生ということも大切にしたい。
- (委員) 他にたくさん果物が出る絵本があるが、これ以上のものは多分ない。絵が繊細で本物。そういう1冊が配付絵本に入ると選定委員会で深いこと考え、提案していることが伝わると思う。

(委員長) それでは、我々委員としても、市としてはこれも残していきたい、伝えていきたい1冊で、「くだもの」も残すということで、よろしいか。

(一同同意)

『入れ替える絵本について』

(委員長) 「そらまめくんのこしょこしょこしょ」と「電車くるかな」はそのままで、「よくきたね」を新たに入れるのであれば「おせんべやけたかな」との入れ替えになるかと思う。可能性としてはその一択になるのかなと思うがいかがか。

(委員) 「よくきたね」は、「はいはい」から「あんよ」の時期にお配りする本で、お母さんが「おいで」と言葉をかけ、来るというのが、安易に想定できるため、本を読みながら、実際にも活用できるというところで、選んでいる。以前の配付絵本の、「もうおきるかな」は生活感のある絵本であった。今の5冊のラインナップには生活感のある本がないのではと思った。

(委員) 「よくきたね」の本の雰囲気も好きではあるが、最近、熊による被害のニュースが多い。普段だったら気にならない熊の表紙も、出産直後の、母親には、ネガティブに感じとられてしまうのではと思った。

(委員長) 今年は5冊、現状維持ということでよろしいか。

(一同同意)

(委員長) 結果的には配付絵本は変わらなかったが、多くの貴重な意見があった。今日の意見をあとの人たちにも引き継いで欲しい。

(3) その他 (お薦め絵本リストの作成について)

～事務局より説明～

(意見・質問なし)

5 その他

『7～8カ月児健康教室での読み聞かせについて』

(事務局) 7～8ヶ月児健康教室において、読み聞かせ方を休止している状態というところで、昨年度も議論いただいた。今年度に入り、数名の委員に保健センターの7～8ヶ月児健康教室を見学いただいた。まず復活させるためにはどうすればよいか率直な意見を伺いたい。

(委員) 三陽保健センターの健康教室へ見学をした。三陽保健センターの、場所は結構広くやりやすいように感じた。絵本の見本が5セット配置してあり、受け付けが終わって、そこで絵本を選ぶという流れで進んでいた。絵本を選ぶ際、事前に絵本を決めている方もいたが、悩んでいる方も結構いた。そこでお母さんや子供の様子を見ながら、絵本のお話をし、選書の手伝いを

行った。書店に確認したところ、「いないいないばあ」を選ぶのはいつも10人に1人程度であったが、私たちで選書の手伝いをしたとき、「いないいないばあ」が非常に多く選ばれたと言われ効果を感じた。保護者に絵本の良さをお話しながら、手渡すことがお子さんとの絵本の生活の中で、役に立てるのではないかと感じる事ができた。絵本を選び終えたあと、部屋で計測をし、全体の講話が始まるまでの時間が手持無沙汰にしている方が多くいた。ここで個別に読み聞かせをするなどして、選書の手伝いと、個別の読み聞かせが実施可能なのではと感じた。

(委員長) 私も見学へ参加した。いままで講話の後に、読み聞かせをしていたという事に驚きで、お子さんも保護者も、そのころには疲れていた。講話が始まるまでの時間は確かに手持ち無沙汰にされている方がいた。何かするのであればその時間でできるかもしれない。しかし、選書の手伝いをするのであればそれなりの知識と経験のある方を、用意しなければならない。また、読み聞かせをするのであれば、臨機応変に対応できる人を毎回各所に配置するのは大変に感じる。それを自分ができるかと言われると、難しく感じた。

(委員) 私は北部保健センター健康教室への見学に参加した。選書の際に、配付絵本を初めて見たという方が多く感じた。また、待ち時間にスマホを見る方が多くいた。以前は読み聞かせのボランティアの方が入り、そこで輪ができるなどして、保護者同士でお話する機会があった。保健センターの方でも、なるべくスマホを公共の場では見ないように案内しているようではあるが、今の保護者の方は人と関わることに、抵抗を感じる方もいるようで、場づくりの工夫が必要に思った。

学生ボランティアのことを昨年度提案したが、地理的に考えて、北部保健センターや吉田保健センターとなる。予算の関係で、ボランティア学生に交通費や市のバスを使った送迎を市にお願いするのは難しいということで、年間97回の7~8か月児健康教室へ毎回参加できるかという現状では難しい。

(委員) 臨機応変に親子に合わせて、寄り添いながら絵本の紹介、本の世界のよさを伝えるのは、絵本に対する愛情がベースにある方にやってもらうのが一番である。多分そういう方はたくさんいるとは思う。保育の仕事を卒業している方にもいる。若い学生もいいと思うが、絵本の温かみや心の栄養になることを理解している方をお願いできると素敵に感じる。

(委員) 選書の手伝いをするにあたって、スキルがあり、初対面相手にも怯まず話しかけられる人材が必要。ながの子どもと本をむすぶ市民の会の代表をしており、うまく人を集めるにはどこに投げればいいのか私たちも二の足を踏んでいるところがある。動いていこうとは考えているところなので、

いい案があれば、教えてほしい。

(委 員) 公民館で読み聞かせ活動をしている方も結構いると思う。そこは家庭・地域学びの課のテリトリーの中だと思うので、公民館通じてボランティア募集も一つあるのではないかな。

(委 員 長) 皆さんの意見からも、人材は眠っていきそうだとすることは分かったが、誰がこれを取りまとめるようにしていくのかというのが今後の課題である。その辺り意見があれば、伝えただけならと思う。市の方でもその辺りを中心に練ると道が見えてくるように感じた。

『その他』

(委 員) 長野図書館に行くと、赤ちゃん絵本のコーナーの配付絵本の5冊がいつもない。何冊ぐらい蔵書があるのか。予算もあると思うが、もう少し多く置いて欲しい。

(事 務 局) 各5冊ほど用意している。平置きで配置しているため手に取りやすく、多く借りられているのかと思う。図書館の予算だと、その本ばかりを購入することは難しい。

(委 員 長) その他の意見はよろしいか、それでは以上をもって協議事項を終了とする。